

事業計画書

平成20年度
(2008年)

自 平成20年4月 1日
至 平成21年3月31日

普及事業部

I. 事業の概況

普及部会 【8,066 千円】

1. 各種イベントへの参加、体験教室・講習会の開催と援助、人材の育成（ミニブリッジ指導員・教育現場講師）など、本年度は次のような事業を実施する。

(1) 第23回国民文化祭いばらき2008 (401千円)

会 期：平成20年11月8日～9日（2日間）

会 場：茨城県霞ヶ浦市

事業内容： 1) ミニブリッジ体験教室、練習サロン
2) パネル、カード及びブリッジが登場する小説等ブリッジ関連資料の展示
3) 各種PCソフトウェア紹介とプロモーションビデオ放映

(2) NECブリッジフェスティバル体験教室 (580千円)

第1回ワールドマインドスポーツゲームズ(WMSG)開催後初のNECBF体験教室は、WMSGを最大限活用してPR。WMSG競技種目の囲碁、チェス、シャンチー、チェッカーとともにマインドスポーツを総合的、実践的に紹介する。ブリッジでは体験教室のほか、初心者プレイヤーの目標となるようなゲーム大会を行なうほか、ひとつの種目への関心を多種目につなげることをめざしてスタンプラリーを行うなど、多彩なプログラムを実施する。NECの社会貢献活動の一環として「社会に役立つ」マインドスポーツ普及の基地となることをめざしながら、ブリッジ人口の拡大をはかる。

会 期：平成21年2月14日～15日

会 場：横浜国際平和会議場アネックスホール（神奈川県横浜市）

事業内容： 1) ミニブリッジ体験教室、コントラクトブリッジ練習サロン、ジュニアサロン、ハシノスケ杯NECスペシャル、初心者用ゲーム大会「第2回デビュタント杯」など。
2) チェス、囲碁など、他のマインドスポーツ種目の体験コーナーやイベントを併催予定
3) パネル展示、各種PCソフトウェア紹介とプロモーションビデオ放映

(3) 「ブリッジを愉しむ会」 (770千円/参加料収入予測 800千円)

年4回、日頃ブリッジをプレイする機会が少ないプレイヤー諸氏が交流を愉しむ場として企画。

(4) ミニブリッジ指導員（仮称）養成講習会 (349千円)

小学生からシニア世代まで、ブリッジを知らない人々にブリッジの楽しさを知っていただくためミニブリッジをわかりやすく指導できる人を養成する講習会を全国的に開催。プレイヤーを対象とした指導方法講習会、ワークショップの他に非プレイヤーでも意欲と熱意のある人を対象に講習会をテスト的に実施するなど、普及システムの進化をめざして養成カリキュラムを充実させていく。

(5) 体験教室・講習会への助成 (2,890千円)

1) ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する体験教室の助成
2) クラブ及び個人が開催する入門教室の助成
3) カルチャーセンター講座アシスタント料助成

(6) 学校担当ブリッジ講師養成講座の開催 (230千円)

小学生から高校生を対象に、授業における講師、クラブ活動指導者など、さまざまな教育現場の分野でミニブリッジ/コントラクトブリッジを対象年齢に応じて適切に指導できる講師を発掘し、養成する。

(7) ブリッジ講習会講師料助成 (300千円)

ブリッジを広めるにあたって特に重要と普及事業部が判断した外部講習会の講師料を助成する。

(9) 海外クラブへの支援 (150 千円)

日本・海外クラブプレイヤーの相互訪問(海外遠征や一時帰国の折など)など交流を促進し、互いの最新情報を共有しながら、海外クラブにおいて最も必要とされる支援を行っていく。

2. 地方クラブの調査・支援と地方会員の獲得 (1,606 千円)

会員増加のための調査・普及活動と地方クラブの支援については、本年度は下記の事業を実施する。

(1) 地方クラブ・同好会活性化のため調査員を派遣し、円滑なクラブ運営や普及活動を支援する

対象：九州を除き、北海道から沖縄まで全国のクラブ・同好会

(2) 地方クラブ主催リジョナルを活用しての地方活性化支援

要請により地方クラブ主催のリジョナルで体験教室の実施や広報支援、初心者ゲーム大会開催の奨励、賞品提供などを行い、地方会友増加の足がかりとする。7ヶ所を予定。

3. 新入会友の獲得 (170 千円)

「新入会・再入会」キャンペーンと会員・会友を対象にした「紹介キャンペーン」を実施し会友の増加をはかる。新入会者/再入会者/紹介者双方にJCB Lオリジナルグッズを進呈する。

4. リタイア層へのブリッジ普及 (200 千円)

「ブリッジと脳」に関する研究の9月学会発表を最大限に活用し、リタイア層/シニア層を対象にしている団体・組織とイベントや広報面でのタイアップ企画を実施する。

5. インターネットを利用したブリッジ普及 (450 千円)

ブリッジ講習を受ける環境にない地方のブリッジ人口を拡大するためにインターネットを利用した入門講習会を専任者をおいて試験的に実施する。

ユース部会 【8,363千円】

「青少年の健全な成長に寄与するブリッジ」をテーマに、小学生～26歳までのジュニア・ユース層を開拓・育成・支援し、ブリッジ界発展のための基盤を確立すると同時に、若年層にとってもブリッジプレイヤーであることが誇りに思えるような社会認識を育てていく。慶應義塾普通部での3年間、同幼稚園での1年間のブリッジ授業、5期目・6期目となる東京大学全学体験ゼミナール「考える力を育てる/コントラクトブリッジ」で培ってきた教育現場での指導ノウハウ、各種教材を有効に活用し、真に子どもたちの健全なる成長に役立つ、質の高いブリッジ教育システムの確立を目標とする。また、教育現場以外でも若年層がブリッジに親しむ機会の増大をめざす。

若年層へのブリッジ普及のため、本年度は以下の事業を行う。

1. 青少年対象イベントへの参加 (230千円)

教育関連機関(文部科学省・教育委員会・学校・PTA等)/行政機関(都道府県・市町村等)/他組織・団体の青少年対象イベントで体験教室を開催し、ブリッジの認知度・信頼度の向上に努め、授業・クラブ活動への採用につなげる。

2. 現役ユースへの支援

現ユース・ジュニア会友がブリッジを通して心身・勉強ともにバランスの取れた健全な成長をしていくことを最優先におきながら、若手プレイヤーの育成と底辺拡大をめざす。大学や高校のクラブへの支援、学生が運営する学生リーグの支援・助成、意欲ある若年層のための強化プログラムなどの技術向上や日本代表としての海外遠征の機会提供・助成を行い、若年層がブリッジを継続できる環境を整備する。

(1) 新入部員勧誘活動助成 (220千円)

学生・OBからの要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の新入生勧誘活動を支援・助成、若年層プレイヤーの底辺を拡大する。

- (2) 学生合宿の支援 (468千円)
春・夏の2回開催予定の学生リーグ主催による合宿に講師・アシスタントを派遣するとともに、ブリッジを始めたばかりの学生の参加を促すため、宿泊費・交通費の一部を助成する。
3. 学生選手権開催 (0千円)
J C B L ウェブページへの掲載など実務レベルの支援を必要とされる場合に行なうことで予算計上なし。
4. ユース・スクール代表選抜・強化プログラム・国際試合への派遣
- (1) 第6回P A B F コンgress/第1回アジアカップへの派遣 (1,528千円/参加料収入300千円)
会期：2008年8月29日～9月7日 開催地：オーストラリア、サーファーズパラダイス
2008年度より、選手から参加料として@¥50,000/1名を徴収し、経費の一部に充てる。
- (2) 第1回ワールドマインドスポーツゲームズ (W M S G) への派遣 (1,216千円/参加料収入180千円)
会期：2008年10月3日～18日 (16日間) 開催地：中国、北京
国際マインドスポーツ協会 (I M S A) 主催、中国国家体育総局棋牌運動管理中心/W M S G 実行委員会主管、G A I S F (国際競技団体連合) 後援により、ブリッジ、チェス、囲碁、チェッカー (ドラフト)、シャンチー (中国象棋) の5種目で金・銀・銅メダル、最多勝トロフィー (国別) を競う知の祭典「ワールドマインドスポーツゲームズ」にユース代表チーム (28歳未満)、NPCを派遣。選手から参加料として@¥30,000/1名を徴収、経費の一部に充てる。
- (3) ユース強化プログラム (1,538千円)
2008年度の代表に選出されたユースチームメンバーおよび2009年度代表候補登録を申し込んだプレイヤーを対象に、実践練習会参加費の助成、強化練習会、選考試合の開催および講師派遣、遠方からの参加者の交通費・宿泊費助成などを行う。
- (4) ユース/ジュニア会友の国際試合への参加助成 (348千円)
若年層プレイヤーが世界のブリッジに触れ、国際経験を積むためにW B F が主催するユース/スクール競技会、香港インターシティーなどへの参加を希望した場合、@¥50,000/1名を6名を限度に助成。
5. 学校教育現場におけるユース層普及活動
「青少年の健全な成長に寄与するブリッジ」のさまざまな利点を教育現場に理解していただくことから始め、授業やクラブ活動でのブリッジ採用をめざす。同時に、教育現場でのブリッジ指導に適した人材の発掘、育成、対象年齢や期間に適した指導カリキュラム/教材の充実化をはかる。また、教育機関でブリッジを覚えた児童・生徒が授業を離れても継続してブリッジを楽しめる仕組みを構築することにより、ジュニア/ユース層のブリッジ人口増加につなげる。
- (1) 教育現場へのブリッジ講師派遣 (350千円)
2008年度2期目から試験的に開講予定の早稲田大学「考える科学」ブリッジ授業への講師派遣、アシスタント料などを助成。
- (2) 東京大学全学体験ゼミナール「考える力を育てる/コントラクトブリッジ」 (894千円)
東京大学駒場キャンパスにおいて週1回32名の履修者を対象に、担当教授/アシスタント計3名体制で、夏学期13回/冬学期13回の計26回実施予定のブリッジ授業にアシスタント2名を派遣する。教材・指導システム等、他大学、講習会においても利用可能な「インターネット」を使った新しい講習システムの開発につなげていく。
- (3) ブリッジ授業の拡大活動 (218千円)
教育関係者を対象に慶應義塾普通部、同幼稚舎、東京大学でのブリッジ授業の実績を活かしたブリッジ授業プレゼンテーションを行い、体験レッスンから始め、授業、クラブ活動などへの採用を働きかける。
7. ジュニア層への普及活動 (1,353千円/参加料収入予測 354千円)

将来のブリッジ界を担うジュニア層を対象にジュニアくらぶ活動をバラエティに富んだプログラムで展開する。長中期の休みに開催する「ジュニアサロン」でミニブリッジを覚えたジュニアたちが継続して学べる機会を提供する「橋之介ミニ道場」は毎回リピーター・新規参加者を多数集めておりジュニアくらぶ活動の両輪としてうまく機能しており、将来的には他に教わる場を持たないジュニアたちがミニブリッジからコントラクトブリッジにスムーズに移行する場となることをめざしている。また、首都圏を中心に展開中の同活動を徐々に協力者のいる地方に広げてネットワーク化をはかり、指導・活動ノウハウなど情報の共有化を進めていく。地方でのジュニアキャンプ開催、ミニブリッジ全国大会など地方と首都圏のジュニアくらぶ会員が交流する機会をつくることにより、ジュニア層だけでなく地方ブリッジの活性化にも資する活動となることをめざしている。

(1) ジュニアブリッジサロンの開催

春休み、ゴールデンウィーク休み、夏休み、秋の連休、冬休み、NECBF時に計10回開催予定。

会場：横浜BC、京葉BC、パシフィコ横浜

(2) 橋之介ミニひろばの開催 一月1回日曜午前に計12回開催予定

対象：①ジュニア（幼稚園年中組～高校生）、②ブリッジの経験が初めて、または2回目の人
グループ単位（2名以上）で参加。* J C B L会員・会友の参加も可。

内容：ホイストからミニブリッジまでを体験

(3) 橋之介プレ道場の開催 一月1回日曜午前に計12回開催予定（ミニひろばと併催）

対象：ブリッジが久しぶりのジュニア または ミニ道場入門前のジュニア

内容：ミニブリッジの練習

* (2)、(3)とも会場は四谷BC 参加料：1人200円、定員：合わせて20名（事前申込み制）

(4) 橋之介ミニ道場の開催 一月1回、日曜午後、計12回開催予定（ミニひろば／プレ道場と同じ日）

対象：10歳～18歳のジュニアに限定

内容：ワンポイントレッスンとゲーム

参加料：1人300円、定員：20名（事前申込み制） 会場：四谷BC

(5) ミニブリッジ大会「ハシノスケ杯」の開催

参加ペアのうち一方がジュニアであることが条件でジュニア層の身近な目標となる大会にする。J C B L会員・会友がお子さんやお孫さんと参加、などミニブリッジを通しての交流・親睦の場、裾野を広げる場となるほか、ミニブリッジ競技会実施に当たってのさまざまなノウハウを蓄積する場となる。

夏休みに2回（横浜BC、京葉BC）、NECBF時に1回の計3回、有料での開催を予定。

*参加料：子ども500円、大人 1,000円

(6) ミニブリッジ大会「ミニ道場スペシャル大会」（チーム戦）8月、3月の2回開催予定

対象：ミニブリッジができるジュニア 参加料：¥500

(7) 「全日本ジュニア・ミニブリッジ選手権大会（仮称）」（チーム戦）の開催

優勝チームを全日本チャンピオンとして表彰することにより、ジュニアくらぶ会員の究極の目標となり、向上心を後押しするような重みのある大会として、一般（大人）の全国ミニブリッジ選手権大会（仮称）実施に先駆けて11月、四谷BCにて開催予定。

(8) 「夏休みジュニアキャンプ2008」の開催

2007年度に初めて開催して好評だった「夏休み親子キャンプ」を今年度は対象年齢を上げて「ジュニアキャンプ」とし、ジュニアくらぶ会員に1泊2日で親睦を深めながらブリッジに親しんでもらう企画。

ジュニアをブリッジ以外の面でサポートするボランティアスタッフを公募して臨む。

講師・スタッフ8名体制で臨むほか、参加者に対し宿泊料などの助成を行う。

日程：2008年7月29日～30日（1泊2日）

場所：東京都八王子市高尾の森わくわくビレッジ

募集予定人数：30名

参加費：9,800円 *ボランティアスタッフの往復交通費、宿泊費、食費は普及事業部が負担

(9) ジュニアくらぶ／小学生用テキスト作成

ミニブリッジからゆるやかにコントラクトブリッジに移行することをめざした小学生高学年以上を対象とする「テーマ別ワンポイント教材（1テーマA4紙裏表1枚）」を作成。ある程度作成できた時点でウェブページでの一般公開を行うことを前提に、①小学校でブリッジを教える場合にも使用できる質
②九州支部をはじめ、全国で子どもたちにブリッジを教える時に、誰が講師になっても、いつでも、どのレベルの子どもに対してでも柔軟に使用できる普遍的教材となることを目標に作成する。絵や色を多用し、明るく親しみやすいテキストとにするため、デザイン・レイアウトを工夫する。紙ベースだけでなくデジタル化し、PCプレゼンテーションツールにも活用する。

(10) スタンプラリー（ジュニアくらぶ会員用企画）

ジュニアくらぶ制度がスタートした2005年度末に24名だった会員が2007年度末には165名と予測を大幅に超えて増加したことに伴い、くらぶ活動参加5回（スタンプ5個）でディズニーランド・パスポート進呈としていたスタンプラリー・プレゼントシステムを大幅に改定。TDLパスポートへのハードルを上げたほか、ビディングボックスなど実用的なブリッジグッズを選べるなど、選択肢を増やすシステムとして4月1日スタート。

広報部会 【23,073千円】

本年は、10月に北京で開催される「第1回ワールドマインドスポーツゲームズ」を軸とする「マインドスポーツ」広報、9月の学会発表を軸とする「ブリッジと脳」広報を2本の柱にブリッジの社会的認知度を飛躍的に向上させる広報活動を積極的に実施していく。

1. ブリッジ普及広報宣伝活動（2,972千円）

(1) マスメディアへの広告掲載

シニア層／団塊世代層／ユース・ジュニア層／30～40代の女性層をターゲットに、それぞれ最適な媒体・切り口・タイミングで広告を打ち、各層へのアピールをはかる。

(2) 対メディア広報活動

全国のメディアに対して、ブリッジを理解してもらい、掲載につなげるためのPR訪問活動やリリース送付、ウェブページへの掲載などの情報提供、体験レッスンを行なう「メディアナイト」を開催する。

(3) 地方クラブの広報活動支援

地方クラブの要請により、広報アドバイス、資料やデータの提供を行う。

(4) 記者会見開催

「ブリッジと脳」研究発表時に記者会見を開催予定。

(5) クリッピングサービスの利用

全国の紙媒体で掲載された「ブリッジ」に関する記事を年間を通じて収集。傾向と量を分析して普及に有効な広報戦略／対策立案のための重要要素とする。

2. マインドスポーツ広報・宣伝活動報宣伝活動（1,183千円）

(1) 「第1回ワールドマインドスポーツゲームズ（WMSG）」関連広報活動

WMSG 5競技の国内団体共同で「チームジャパン」として北京に代表を送ることでPR効果・露出の増大をはかり、国内におけるマインドスポーツ全般の概念の確立、究極的には「ブリッジ」（および各競技）の知名度をあげプレイ人口の増加をめざす。

(2) IMSA（国際マインドスポーツ協会）メンバー（囲碁、チェス、チェッカー）と昨年引き続き、全国レベルで協同し、各団体主催のイベントで互いの体験教室を開催する。

3. 「ブリッジと脳」研究（1,000千円）

東京女子医科大学と共同で行なっている「ブリッジと脳」の研究発表を最大限に活かす広報活動を展開する。

- (1) 学会発表／海外の権威ある学術誌への論文掲載
- (2) 講演会他PR活動の展開

4. ブリッジに関する出版物の刊行 (12,663千円)

定款第5条(6)に定められた、コントラクトブリッジに関する出版物の発行について、本年度は次のような書籍およびパンフレットを出版する。経費を押さえるため、印刷手法を変更して実施する。

- (1) 会報「JCBLブリテン」

年6回奇数月1日発行、各7,300部

- (2) 「JCBL HANDBOOK」

5月1日 7,300部発行

5. 広報ツールの製作・発行 (2,272千円)

ブリッジの普及・啓蒙活動の効果を高めるため、広報ツール(小パンフレット、ポスター、オリジナルグッズ等)の新規製作ならびに既存広報ツールのバージョンアップを行う。

- (1) 2006年に製作したブリッジ紹介総合パンフレット(官公庁等公的機関、教育機関、メディア向け)の改編と増刷(2,000部)

- (2) 新規ブリッジ紹介小パンフレットの製作(10,000部)

ブリッジを知らない一般の人を対象にした小パンフレット。ブリッジワールド(ミニブリッジ・コントラクトブリッジ)を紹介し、やってみよう、できそう、と思ってもらうことで、体験教室・入門講習会参加者増加につなげることをめざす。これまでの3種の小パンフレット(「ブリッジのお話」、「ミニブリッジ」、「LET'S PLAY BRIDGE」)を統合したもので、1冊当たりの単価を従来の3分の1程度に抑え、経費節減をはかる。

- (3) パネル・ポスター製作

2つのPRポイントである「WMSG」と「ブリッジと脳」をテーマにしたパネル・ポスターを製作。イベント時(体験教室等)に展示。希望があれば各BCに貸し出す。既存パネルのアップデートも行う。

- (4) 普及用オリジナルグッズの製作

缶バッジ、鉛筆、ノート、Tシャツ等、普及用のオリジナルグッズを数種製作し、ミニブリッジ大会や初心者ゲーム大会などの際の記念品や賞品として活用する。インターネットを利用して廉価で製作する。

- (5) 広報資料製作

従来の手作業での広報資料ファイル作りも継続して行い、常に最新の普及・広報情報の提供をめざす。

6. ウェブサイトの運営 (2,983千円)

JCBLの事業内容、競技会情報、各種申込みなど最新情報を広く一般公開するとともに、会員サービスおよびブリッジの普及・広報宣伝活動に資する。

ウェブサイトの全面更新から3年を経過した本年度は、より広範囲で質の高い最新情報の提供をめざして、広報関係ページや普及関係ページの充実化をはかっていく。

- (1) ウェブサイト維持更新料
- (2) BCとの間のプログラム改修費用(1ヶ所想定)
- (3) コンテンツ執筆料

その他普及事業部の目的を達成するための事業 【28,982千円】

普及事業部の目的を達成するため、本年度は以下の事業を実施する。

- (1) 各種講習会への会場の提供
- (2) その他目的達成に必要な経費

人件費、交通費、通信費、会議費等、普及・出版・広報活動に必要な経費。

以上

競技会事業部

I 事業の状況

1. コントラクトブリッジ競技会の主催と公認【収入174,800千円】

定款第5条(3)に定められた「コントラクトブリッジ競技会的主催と公認」については、本年度は以下の事業を実施する。

(1) 競技会的主催（収入55,072千円）

1) ナショナル（全国大会）競技会 [収入31,580千円]

競技会名	日 程	予定卓数
玉川高島屋S・C杯	4月19、20日	88
文部科学大臣杯関東予選	5月10、11、17、18日	64
藤山杯	7月5、6日	144
外務大臣杯	8月23、24日	75
高松宮記念杯	9月13、14、15、20、21日	108
高松宮妃記念杯	10月25、26日	88
読売新聞社杯	11月1、2日	157
NISSANブルーリボン杯	12月23日	130
レッドリボン杯	12月23日	45
朝日新聞社杯	1月10、11、12日	150

2) リジショナル競技会 [収入19,808千円]

柳谷杯	4月5、6日	145
サントリー杯	4月29日	120
日本航空杯	5月24、25日	72
モンタルト杯	7月26、27日	36
丸の内杯関東予選・決勝	8月30、31日	16
萩原杯	10月4、5日	100
服部杯	12月3日	200
新年リジショナル	1月4日	32
春季リジショナル	3月7、8日	48
渡辺杯	3月28、29日	70

3) 日本リーグ [収入3,360千円]

1部	前期4、6月、後期12、1月	16
2部		24

3) 社会人リーグ [収入324千円]

社会人IMPリーグ	11月～3月	18
-----------	--------	----

(2) 競技会の公認（収入117,228千円）

1) ナショナル競技会 [収入800千円]

NRM杯、任天堂杯並びに主催ナショナル競技会 予選を含む18競技会を公認		160
---	--	-----

2) リジショナル競技会 [収入6,576千円]

主催リジショナル競技会予選を含む42競技会を公認		1,500
--------------------------	--	-------

3) セクショナル競技会 [収入67,500千円]

約1,850競技会を公認		26,800
--------------	--	--------

4) ローカル競技会 [収入1,800千円]

約460競技会を公認		2,800
------------	--	-------

5) IMPリーグ [収入32,452千円]

5月～9月		2,700
11月～3月		2,700

6) クラブ選手権 [収入8,100千円]

約1,400競技会を公認		12,000
--------------	--	--------

- (3) マスターポイント証収入 (2,500千円)
- (4) 競技会の主催と公認事業経費 (36,514千円)
 競技会の開催と公認及び定款第5条(4)に定められた「マスターポイント制度の確立と実施」のために必要な主な経費の内訳は以下のとおり：
- | | |
|------------------|----------------|
| 人件費 [5,062千円] | 旅費交通費 [170千円] |
| 通信運搬費 [2,200千円] | 会場費 [15,825千円] |
| 消耗品費 [4,473千円] | 賞品費 [4,640千円] |
| 助成金 [4,144千円] | |

2. 競技会の水準向上のための講習会等の開催 (8,150千円)

競技会の水準と環境の向上のためのディレクター講習会の開催、競技会運営ソフトの開発などについては、本年度は以下のような事業を実施する。

- (1) JCB Lハンドブックの作成 [80千円]
 競技会参加者の手引き、JCB Lハンドブックの改訂作業を行う。
- (2) ディレクター講習会 [636千円]
 ・東京および地方でクラブ並びにセクショナルディレクター講習会を開催する。
 ・ディレクター講習会受講者向けに実地に教育する実習の場を設けディレクターの技術向上を図る。
 ・ディレクター勉強会を開催する。
 ・ディレクター講習会用教材、ディレクターマニュアル改訂、ディレクター向けウェブサイト作成など教材、資料などの作成、整備を行う。
- (3) 公認クラブ支援 [72千円]
 公認クラブに対する支援を行う。
 ・会議費－12千円
 ・地方クラブ会議宿泊費補助－60千円
- (4) 参加者に対するマナー啓蒙活動 [172千円]
 グッドマナープレイヤーの表彰、マナー啓蒙ポスターの作成と配布などマナー向上のための活動を行う
- (5) 競技会運営システムの保守 [2,714千円]
 平成14年度から開発を開始し平成19年10月にバージョン2.5をリリースした競技会集計ソフト(JTOS)については、本年度は以下のような事業を実施する。
 ・開発用機材購入費－150千円
 ・メンテナンス料－2,520千円
 ・会議費－44千円
- (6) ブリッジライブラリー運営事業 [991千円]
 定款第5条(6)に定められた「コントラクトブリッジに関する出版物の発行および資料の収集と管理」について、本年度は次のような事業を行う。
 ・図書分類、キーワード設定経費－50千円
 ・消耗品費－20千円
 ・データベースソフト保守費用－21千円
 ・書籍購入費－750千円
 ・書籍製本費(雑誌の製本および破損図書の修理)－150千円
- (7) ネットブリッジ推進 [221千円]
 インターネットを利用したブリッジ競技会の検討、実施を行う。
- (8) ウィメンズ強化 [1,300千円]
 BBOを利用してEコキッシュ氏の指導を受ける。また若手女性プレイヤーのために託児所利用の補助を行う。
- (9) 競技委員会 [280千円]
 競技会における裁定、コンベンションの規程の制定、マスターポイント規則の管理など技術的事項の検討を行う。

(10) カテゴリー検討 [20千円]

レイティングによる公認条件など、カテゴリー全般の検討を行う。

(11) ルール委員会 [1,020千円]

今年度は平成20年4月26日から施行の「デュプリケートブリッジの規則2007年版」の翻訳・施行および「デュプリケートブリッジの規則2007年版」解説講習会の開催、プレイヤーへの啓蒙活動などを行う。

- ・デュプリケートブリッジの規則2007年版翻訳料－900千円
- ・新規則関連謝礼－100千円
- ・会議費－20千円

(12) センターサービス向上委員会 [644千円]

- ・競技会結果閲覧Webサイト運営経費－600千円
- ・会議費－44千円

3. その他競技会事業部の目的を達成するための事業【43,476千円】

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料など

国際交流事業部

I 事業の状況

1. 国際試合へ日本代表の派遣と選抜

定款第5条(5)に定める「コントラクトブリッジを通しての国際交流」については、本年度は以下の事業を実施する。

- (1) 第6回太平洋アジアブリッジ連合(PABF)コンgress代表者会議への役員派遣
[433千円]

会 期：平成20年8月29日～9月7日

会 場：サーファーズ・パラダイス、オーストラリア

事業内容：1) PABF代表者会議へ役員派遣

- (2) 第1回ワールドマインドスポーツゲームズへの代表派遣 [6,976千円]

会 期：平成20年10月3日～18日

会 場：北京、中国

事業内容：1) 10月3日～18日に開催される第1回世界マインドスポーツゲームズに代表を派遣する

2) 同大会に参加するプレイヤーの参加登録を行う

- (3) 第46回PABF選手権日本代表選抜試合 [883千円]

会 期：平成20年11月15、16日、12月13、14日

会 場：四谷ブリッジセンター

事業内容：1) 平成21年にマカオで開催予定の第46回PABF選手権に参加するオープン、レディス各1チームを選抜

2) 選抜試合参加者への交通費と宿泊費の助成

3) 代表チームへの国内試合参加料、練習会費用の助成

- (4) 代表チームユニフォーム助成 [420千円]

事業内容：第46回PABF選手権日本代表チームにユニフォームを支給する。

- (5) 招待試合へ代表チーム派遣 [330千円]

事業内容：2009年のYeh Brothers Cupに日本代表チームを派遣。

2. 第14回NECブリッジフェスティバルの開催 (26,965千円)

会 期：平成21年2月9日～15日

会 場：横浜国際平和会議場

事業内容：国外の一流チームを招待して日本人プレイヤーの技量向上と国際交流の促進を図る。

1) NEC杯：平成21年2月10日～14日

2) 横浜スイスチーム：平成21年2月14日

3) 飛鳥杯：平成21年2月15日

4) BIGLOBEシリーズ：平成20年9月～12月

5) ミニブリッジ体験教室の開催 (普及事業部扱い)

(収入10,950千円)

3. その他国際交流事業の目的を達成するための事業

本年度は、国際交流事業の目的を達成するために必要な事業として、以下の事業を実施する。

- (1) 世界同時大会への参加

平成20年6月6日および7日に開催が予定される世界同時大会開催に参加協力

- (2) PABF同時大会への参加

平成20年10月～平成21年3月まで毎月第1金曜日/土曜日に開催が予定されているPABF同時大会開催に参加協力

- (3) 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集

- 1) A C B Lとの提携の継続・強化：A C B L 競技会を会報で紹介
 - 2) P A B F加盟国競技会の開催情報の提供
 - 3) W B F加盟国の競技会開催情報の提供
 - 4) J C B Lホームページを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連ホームページから情報を収集し、会員に提供する。
- (6) その他目的達成に必要な経費[2,559千円]
交通費、通信費、会議費等の国際交流事業に必要な経費

九州支部関連

1. 九州支部

- * 2012年PABFを福岡で開催する誘致活動を引き続き展開し、8月のPABF総会で決定したら、市民の関心を喚起するために、記者会見などの広報活動を展開する。
- * 3月の西日本新聞杯（九州リジョナル）に加え、7月の博多祇園山笠の時期に合わせ、新たにテレビ西日本杯を支部主催で開催する。旅行社とタイアップし、参加しやすくすると共に、7月の九州の魅力を各地のプレイヤーに分かってもらい、多くの参加者を期待する。同時に講習会を卒業された初心者向けのトーナメントも併設し、プラザで育ったプレイヤーと各地の初心者プレイヤーの交流の場とする。
- * 手探りで始めた支部の運営を今年度より名実共に支部主体に移し、本部は支部の要請により活動をサポートする。このため支部の非常勤職員に一部の作業を業務委託することにより、運営体制を整える。
- * 各普及活動項目は基本的には前年度と変わりはないが、いわば個々の点であった活動を広げて、面に変化して行く年としたい。
- * 詳しい事業計画は別紙参照。

2. 福岡ブリッジプラザ

- * 本部の強力なサポートの基にオープンした福岡ブリッジプラザは、運営の最終責任は本部が取りつつ、今年度より地元主体の運営に大きく変えて行く。即ち本部から派遣していたマネージャーを今年9月末までとし、10月以降は地元のメンバーで運営に当る。このために設けたプラザ幹事会に於いて、運営方法全般に亘り討議・決定する。
- * 運営の重点は依然として新人プレイヤーの育成である。即ち多くの講習会受講者を集め、育てそしてプラザのお客さんとして定着してもらおう。このために地元メンバーによるあらゆる努力を結集する。
- * 育ったプレイヤーを加え、ウィークリー、IMP及び週末のセクショナルを活発化する。特に週末のセクショナルについては、今年後半より従来の福岡ブリッジクラブ主催からプラザ直轄ゲームとし、プラザ運営の健全化に繋げる。
- * プラザの今後の見通しを、本年半ばまでに一つのチェックポイントとして検討し、このまま継続していくか決定する。

2008年度予算

収入

福岡ブリッジプラザ：4,394千円

九州支部：2,730千円

合計：7,124千円

支出

福岡ブリッジプラザ：12,406千円

九州支部：4,994千円

支部事業支援：960千円

合計：18,360千円

その他の事業

1. その他連盟の目的を達成するための事業【36,205千円】

J C B Lの目的を達成するために必要な事業として、本年度は以下の事業を実施する。

- (1) 事務局（一般管理費）の維持（36,205千円）
理事会の管轄の下に事務局を設置して諸事業活動を支援する。
- (2) 新5ヶ年計画の実施
企画委員会を中心に作成・採択され、平成20年度より開始する第2次5ヶ年計画の目標達成に努める。
- (3) 公益法人制度改革対応
平成20年12月より施行される公益法人制度改革関連3法に対応し、期限内に新制度での公益社団法人に移行するための準備作業を行う。
- (4) 収益事業の運営（収益事業特別会計に計上）
 - 1) 商品販売事業
ブリッジ用品の補給及び販売
 - 2) 四谷ブリッジセンターとの提携
NPO法人四谷ブリッジセンターと協同してブリッジの振興に努める。
- (5) 基金の運用
主催クラブの指定により、ローカル並びにクラブ選手権試合の公認料をチャリティ基金の資金に充当して各種活動を支援する。
 - 1) チャリティ基金
日本赤十字社、癌研究会等の各種団体に寄付する。